

マテリアリティ・特定プロセス

当社グループは、2020年にプロジェクトチームでサステナビリティに関するマテリアリティの特定を行いました。また、2023年の中長期経営構想策定時に、マテリアリティと統合した計画を策定し、特に経営上重要とするマテリアリティの指標も含めて経営目標を設定しました。来年度には、社会・市場環境や開示規制の変化等を踏まえたマテリアリティの改訂を予定しています。

マテリアリティ

当社グループは、15のマテリアリティを特定し、それらを4つの柱に区分しています。中長期経営構想“Beyond the OCEAN”では、非財務価値の経営目標を定めましたが、経営目標はこのマテリアリティを踏まえて、関連する指標を採用しています。

マテリアリティの 特定プロセス [詳細はWEBで]

1. 前提条件の設定

マテリアリティの条件を明確にした上で、ISO26000、GRIといったサステナビリティに関するグローバルスタンダードから項目を抽出し、当社の事業プロセスを踏まえ、妥当と思われる項目に整理。

2. 重要度分析

当社グループにとっての重要性の観点と、ステークホルダーにとっての重要性の観点から、1の項目の重要度を分析し、議論のたたき台としてのマテリアリティ・マトリックスを作成。

3. 議論と再検討

国内外のカーメーカー・自動車部品メーカーのマテリアリティ、および今後の技術開発の方向性、新型コロナウイルスの影響などを踏まえてマテリアリティを再検討。妥当と思われる項目に整理。

4. 有識者レビュー

ESG投資と企業のマテリアリティへの助言で実績のある日本政策投資銀行のチームに、マテリアリティ策定プロセスと、課題についてご評価いただき、執行役員(当時)の竹ヶ原啓介氏より、特にESG投資などサステナビリティについての情報ニーズの高い長期投資家の観点から、ご助言いただきました。ご指摘事項を今後のサステナビリティ経営に活かしていきます。

5. 承認・決定

戦略会議での議論を経て取締役会にて最終承認。各部門の課長以上にはマテリアリティの説明を行い、目的の共有を実施、社内浸透を進めKPIを定めてPDCAをまわしています。

ステークホルダーとの信頼醸成

- ・企業倫理・コンプライアンス
- ・顧客満足度の向上
- ・責任ある調達
- ・地域社会の発展

特に関連するSDGs



製品を通じた社会・顧客課題の解決

- ・持続可能なモビリティ社会と豊かな暮らしへの貢献
- ・モビリティの安全性向上
- ・環境配慮製品の開発

特に関連するSDGs



【経営目標】 新規商品・サービス上市件数

【経営目標】 電動車向け売上比率

環境負荷の極小化

- ・気候変動の緩和および適応
- ・持続可能な資源の利用
- ・水資源の保全

特に関連するSDGs



【経営目標】 CO₂排出量

人財の尊重と活躍

- ・人権の尊重
- ・安定した雇用と働きやすい職場
- ・従業員の安全と健康
- ・人財育成と挑戦できる風土の醸成
- ・ダイバーシティ&インクルージョン

特に関連するSDGs



【経営目標】 従業員エンゲージメント